



トキノウ

1、2025 年度葦毛湿原の動物調査

2025 年は昨年から引き続き 4 月から二の沢で赤外線センサーカメラによる動物の定点撮影を行いました。二の沢での撮影は 2016 年から開始し、10 年目に入りました。二の沢以前に設置していた四の沢での撮影を含めると、赤外線センサーカメラによる撮影は開始から丸 12 年が経過しました。

二の沢の赤外線センサーカメラは L 地点での撮影から始めて 12 年に亘って屋外で動物の撮影を続けてきました。長い間頑張ってくれましたが、とうとう壊れて撮影できなくなってしまいました。残念ながら、2025 年は 4 月の記録しかありません。これで、葦毛湿原二の沢での動物撮影は終了になりました。

二の沢以外にもセンサーカメラでの動物調査を行っているので、今後はその他の地点での報告を行っていきたいと思います。今回は 2025 年 4 月のみですが、二の沢での最後の報告になります。いずれ、二の沢での記録をまとめて報告したいと考えています。

また、二の沢以外の動物調査についても順次報告していく予定です。

1) 調査の目的と方法

動物の撮影は食害による葦毛湿原の植生への影響、アライグマ等の外来種の確認のために継続して行っています。

撮影は、昼間はカラー、夜間はモノクロです。これは、夜間撮影時にカラー撮影するためにはフラッシュが必要になるので、動物を驚かさないように継続して調査をするためです。

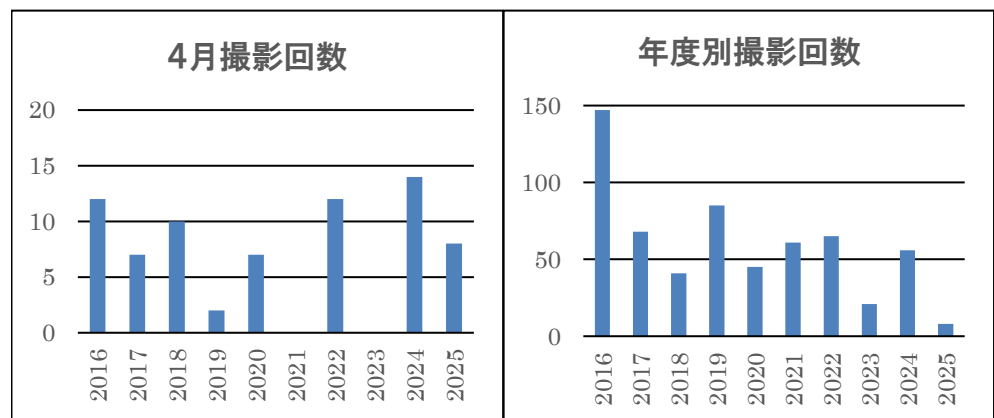
2) 調査結果

2025 年度の撮影は 4 月の 8 回のみです。これまでの 4 月だけの撮影回数と各年度別の撮影回数を調べると右図のようになります。

4 月は 2024 年度の 14 回が最高

で、2021・23 年度のゼロが最低です。2016～2025 年度の平均は 7.2 回で 2025 年 4 月の 8 回という撮影回数はほぼ平均並みです。

年度別撮影回数では 2016 年度が 147 回と突出して多いですが、これは二の沢を伐採して裸地化させたのちに、食草となる草が増えたことによりニホンノウサギが増えたことが原因です。2019 年度も 85 回と増えていますが、これも前年に木の根の伐根作業を行い明るい草地になったことでノウサギの撮影回数が増えたことが原因です(葦毛通信 No. 94 参照)。



2025年4月に8回撮影された動物は4種で、内訳はニホンカモシカとニホンノウサギが各3回、ホンドテンとニホンイノシシが各1回の合計8回です。

3) 4月の撮影傾向

2016～2025年度までの10年間で4月だけの撮影回数は以下の表のようになります。前半の5年間と後半の5年間で撮影された動物の種類に違いが見られます。ヤマシギとシロハラは鳥類で偶然撮影されたものと思われるので除外すると、その他は哺乳類が6種類になります。これらのうち、2016～2020年はニホンノウサギ、ホンドキツネ、ニホンイタチの3種類が主になり、2022～2025年はニホンイノシシ、ニホンカモシカの2種類に主たる種が交代しているように見えます。

前半の2016～2020年でニホンノウサギが多いのは、裸地化して草が増えることによりニホンノウサギの食草が増えたためと考えられます。また、ホンドキツネとニホンイタチは捕食者としてニホンノウサギを狙って撮影回数が増えたのかもしれませんが。

4月だけでは何らかの傾向を示すのか、あるいは偶然なのかはわからないので、今後、他の月のデータを確認していく予定です。

| 年度別4月撮影回数 | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 番号 | 種名 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
| 1 | ニホンノウサギ | 7 | 5 | 7 | 1 | 5 | | | | | 3 |
| 2 | ホンドキツネ | | | 1 | | 2 | | | | | |
| 3 | ニホンイタチ | 1 | 2 | 1 | 1 | | | 1 | | | |
| 4 | ニホンイノシシ | | | | | | | 2 | | 3 | 1 |
| 5 | ニホンカモシカ | 3 | | | | | | 9 | | 11 | 3 |
| 6 | ホンドテン | | | | | | | | | | 1 |
| 7 | ヤマシギ | | | 1 | | | | | | | |
| 8 | シロハラ | 1 | | | | | | | | | |
| | 合計 | 12 | 7 | 10 | 2 | 7 | 0 | 12 | 0 | 14 | 8 |

以下の写真は2025年4月に撮影されたニホンイノシシ、ニホンカモシカ、ホンドテン、ニホンノウサギの写真です。



ニホンイノシシ (2025年4月20日)



ニホンカモシカ (2025年4月3日)



ホンドテン（2025年4月3日）



ニホンノウサギ（2025年4月8日）

2、2026年ニホンミツバチ巣箱設置経過報告ー1

葦毛湿原では植物の花粉を運んでもらうポリネーターとして、ニホンミツバチの巣箱を置いて湿原内に定着してもらい取り組みをしています。2023年に開始して、今年で4年目になりました。

2023年3月に初めて3か所に設置して、2023年は7月頃に1か所の巣箱に入りましたが、巣を造る途中で放棄したようです。2024年は2か所の巣箱に入り順調にミツバチの個体数も増えましたが、オオスズメバチの攻撃を受けて巣を放棄してしまいました。そこで2025年は巣の入り口にアルミの板を張り付けオオスズメバチが侵入できないように巣箱を改良しましたが、ニホンミツバチは入りませんでした。今年、2026年は5月6日にこれまで入っていなかった一の沢上流部の巣箱に初めて入りました。これまでのところ、入った



採蜜から返ってきたニホンミツバチ



一の沢のニホンミツバチの巣箱

巣箱は一の沢の1か所だけです。今春の分蜂はほぼ終了の時期ですが、2023年には夏頃に入った例もあるのでその他の巣箱についても確認を続ける予定です。

ニホンミツバチは4～5月頃に分蜂して新たな群ができ、春から秋に採蜜して冬を越して春に新たな群が分蜂して世代交代をするサイクルを繰り返しています。分蜂するところまで確認できれば、一つのサイクルが回ったこととなりますが、葦毛湿原ではまだ確認されていません。今年入った群れが順調に冬を越して春に分蜂して新たな群れができることを期待しています。

ニホンミツバチのこれまでの主な経過報告は2024年に5回行っており、葦毛通信 No. 156・159・161・164・165 に掲載しています。

3、2026年度モニタリング報告－2

葦毛湿原では今年咲いたハルリンドウが種子を落とし、発芽が始まりました。ハルリンドウは2年草、冬型1年草、越年草と様々な記載があります。ハルリンドウの生活環が1年なのか、2年で2年草なのかを確かめるために現地で観察を続けています。

愛知県絶滅危惧ⅠA類のカガシラが発芽しました。カガシラは葦毛湿原では2012年に地上絶滅しましたが、2013年1月から開始した大規模植生回復作業により2014年に埋土種子から復活しました。これ以後、毎年葦毛湿原では数か所で自生が確認でき、多いところでは100株近い発芽があります。発芽直後は特徴的な3枚葉です。



ハルリンドウ発芽一（2026年5月27日）



ハルリンドウ発芽二（拡大）



カガシラ発芽一（2026年5月27日）



カガシラ発芽二（拡大）